

山田長政の子孫のお墓か!? 権常寺墓地にある謎の文字

番組あてにメールを頂いた。「権常寺町峰の前公民館の裏手の墓地にある墓が、**山田長政**の側室とその子孫、親戚の墓らしいのですが、行って調べてもらえないだろうか」とのことで早速調べてみた。

まずは山田長政という人物の経歴を簡単に記載してみる。

1590(天正18)年 駿駿河(静岡県)に生まれる。伊勢や尾張との説もある。

1611(慶長16)年。駕籠かき(駕籠を担いで人を運ぶのを職業とする人)の山田長政は海外へ進出する商人たちに刺激され、朱印船ののってシャム(現在のタイ国)に渡る。

1621(元和7)年、東南アジア諸国を股に掛ける大仲買商人として活躍し、やがて日本人町(住民1万人)の頭領となり、日本人の武士たちで構成された日本人義勇隊の隊長として、タイの内乱や外征に義勇隊を率いて参戦し、つぎつぎと武勲を立てる。

1629(寛永6)年。王に仕え日本兵を率いて戦った活躍が認められ大臣になる。

王が亡くなると、後継者争いが起き、長政は日本兵を率いて、反乱を鎮め王の子を即位させる。しかし、王位を狙っていた者に妬まれて、遠方に左遷される。

1630(寛永7)年。40歳の頃、左遷先での戦いで、傷口に毒を塗られ、毒殺される。

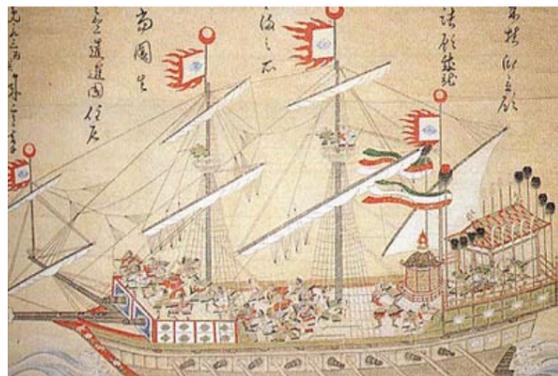
以上が、一般的にいわれている山田長政の話だが、この人物はかなり謎に包まれた人物像で、タイ南部の王国の王であったという話から、架空の人物説まで、様々に取りざたされている。

山田長政が有名になったのは、戦時中の話で、日本軍のアジア侵攻における「**強い日本人**」の象徴として英雄視され、教科書などに扱われたことによるという。そのため、70才位以上の方はご存じだが、それ以外の世代の人間には、あまり聞き覚えがない名前、最近では軍国主義教育のために造られた人物だという説が多い。

しかし**関ヶ原の戦い**が終わり、生きる場を求めた多くの侍達が東南アジアの諸国へ渡り活躍したというのは事実であり、山田長政という確かに実在した人物が実際の活躍はさておき、その侍達の象徴として脚光を浴びたのかも知れない。



※教科書に掲載されていた山田長政の肖像画



※山田長政奉納の「戦艦図」(駿府浅間神社)

メールを頂きまずはその墓地へ行ってみることにした。目星を付けていた公民館に行ってみたが、そこはどうも違うみたいで、権常寺じゅうを探しているうちに、そういえば私の祖父と母の墓地も権常寺にあるのだが、裏側に小さな公民館があったのを思い出して行ってみると、まさしくそこがメールで言われていた峰の前公民館であった。なじみの場所なのだがよく検索してみると祖父のお墓より少し離れた一角に、人の背丈の2倍ほどもあるひとときわ大きな石碑があった、おや? と思い近寄ってみると**山田**という文字が見えた。ここに違いない。

そこは5メートル四方を石の塀で囲み入り口には鉄の扉が設けられた他の墓とは明らかに様子の違う墓石群だった。大きな石碑を正面に山田姓のお墓10体ほどが向かい合うように並んでいて、一番手前のお墓だけは近年建てられた新しいお墓だった。たまに来ていた場所ではあったが、こんなに大きな一族のお墓があるなんてことを私は初めて知った。

その後、近くにある私の実家に寄り、祖母に聞いてみると、墓地近辺の地主である**市瀬さん**に電話で問い合わせしてくれた。市瀬さんはお墓の存在はご存じだが、そのお墓の子孫の方がどこにいるのかはご存じなく不思議に思っていたそうだ、そこで早岐地区の歴史に詳しい郷土家の**吉永満さん**の電話番号をお聞きすることができたので、早速電話してみた、前々からお話を伺いたかった方なので、楽しみに電話したが、吉永さんいわく「**山田長政**」という文字が書かれたお墓が昔からそこに有ったのだそうだ。80歳を越える吉永さんは子供の頃からそのお墓の存在を知っていて、その当時のヒーローであった山田長政と家の近所にあるお墓の山田長政の文字にロマンを感じ夢想していらしたみたいだが、本格的な研究には至っていないということだった。

その書かれた文字を確かめに再度墓地へ行った、手を合わせ失礼して、塀の外側からお墓に彫られた文字を読んでみると確かに奥から2番目のお墓に「**山田長正室注連子孺人**」と彫られてある。更にどことなく感じていた、他のお墓とこの墓石群との違和感の理由がしばらくしてわかった、この山田一族の墓石群だけが他の墓石とは形が違い、墓石の上部が**角柱型**になっているのだ。この墓の形は戦前の軍人さんや**神道**を信仰されているお家のお墓でよく使われている墓石のデザインだそうだ。山田家の方がそうなのかは分からないが、少なからず神道や軍人という言葉に山田長政の面影を感じ取ることが出来る。

その隣には、この近辺の地主である市瀬氏一族の墓と昔からこのあたりにいる池田氏のお墓が並んでいる。しかし不思議なことに、祖母も、地主の市瀬さんも郷土家の吉永さんも言っていたのが、このひとときわ大きなお墓の身元が分からないということだ。山田という人がこのあたりに昔からいたということを知ることが出来たということである。



※立派な山田一族のお墓



※角柱型の墓石の山田一族のお墓



※「山田長正室注連子孺人」の文字が見える

やまだながまさしつしめ こじゅじん
墓石にある「**山田長正室注連子孺人**」の文字を自分なりに解釈してみると

山田長正・室で山田長正の妻もしくは
山田長・正室で山田長の妻とも読める。

「**注連子(しめこ)**」は名前で「**孺人(じゅじん)**」は偉い人の妻を意味する。

すなわちこの墓は **しめこ**
山田長正もしくは**山田長**という**身分の高い人の妻、注連子**の墓である。
ということになる。

この山田長正があつた有名な山田長政のことなのかが焦点になるが、冷静に考えて山田長政との関係は薄いとは思ふ。しかしこればかりは、お墓の子孫の方に直接聞かない限りは絶対とはいえない。

これからさらに突っ込んで調査するならば、一番手前にある最近建てられたお墓の亡くなった方の名前からご遺族の方を捜し出し、お話を伺うか・・・
もしかしたら今度のお盆の日に母のお墓参りに行った際にお会いできる偶然があるかもしれない。

一番奥にある墓石の裏側に風化していて読みづらいが、
山田氏 舊平戸候之世臣也而 累代之墳
墓庄崎針尾村小字見上大正七年八月
有故桜此地鳥 山田善兵衛以下七位達之本見 と書かれてある。

私の個人的よみだが、**針尾**にあつた山田氏という**平戸藩士**のお墓が大正7年8月にその子孫の**山田善兵衛**等7人の手によって何らかの理由でこの地に移されたのではないだろうか。

権常寺にある立派なお墓と山田長政との関係性は現在の所、ここまでの進展で、以降何か進展があれば報告したい。